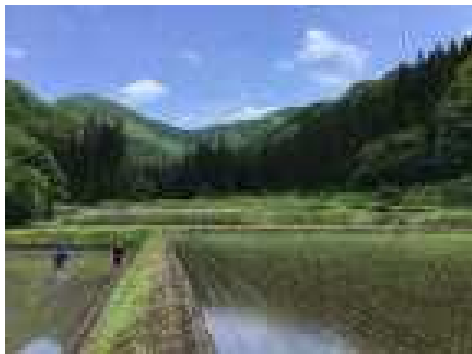


横手城南高等学校アクティブボランティア第1弾！

## 山内三又地区 田植えボランティア



5月29日（土）。朝、学校を出発する頃に、ポツポツと雨が見え始めた。それでも、なんとかこの天気が持つて欲しいと祈りながら、山内三又地区の会館へ到着する頃にはずいぶんと雨が降っていた。

少し様子を見ようと会館の中にとると、とんでもなく強い雨と風がやってきて不安が広がっていった。

それでも、指導して下さる三又地区の営農生産組合の方が、バスに乗って田植えの場所まで移動しようと言ったので生徒たちは準備を始めた。

今回の参加生徒は全部で12名。1年生が9名と2年生が3名。いつもは女子の方が多かったと思うが、今回は男子が9名と頼もしく感じていた。会館を出るときには、長靴をしっかりと履いている生徒と始めから靴を履かずに裸足のままバスに乗り込む生徒に分かれた。「裸足でバスに乗るのは初めて！」と、楽しそうだった。

バスは、細い山道をクネクネと移動し、田植えの場所に着いた。まだ雨は降っていた。長靴の生徒も、裸足の生徒もバスを降りて田んぼに向かった。裸足にクロックスの生徒がいたが、これが一番快適なのではないだろうか。裸足の生徒は砂利道を少し歩くので「痛い！」を繰り返し叫んでいた。



田んぼでは、すっかり準備が整っていて、早速稲を植え始めた。今回は、ある程度稲が植えてある田んぼの間隙を埋めるように、手で丁寧に稲を植えることになっている。まずは恐る恐る稲を手にとり、田んぼに入る。予想以上にぬかるんで、慣れるまでしばらくは全身でバランスをとりながら、おっかなびっくり植えていく。意外にも（？）始まると、女子はそれぞれ黙々と取り組み始めたが、1年生男子がなかなか落ち着かない。長靴で始めた生徒がうまく歩けず、やがては長靴の片足を泥に取られてしまった。周りから「諦めろ」と諭され、ついに彼も裸足になった。こうして、最後まで長靴で田植えをし続けたのは一人だけだった。来年は、長靴ではなく「裸足」で田植えをする前提で準備を進めようとした。



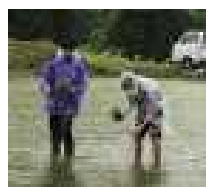
休憩の時間あたりには、雨が上がり、空が明るくなって気持ちの良い天気になった。周りを山に囲まれ、鳥やカエルの声がする。実際、女子がカエルと戯れていた。ゆっくりしたら再び田んぼの中に入る。今度は慣れてきたので、全員が静かに黙々と田植えを進める。あんまり集中しているから、声も掛けられないくらいだ。そして、とても楽しそ



うである。残念ながら、活動は昼で終わってしまう。とこうして1日中田植えをしているのだろう。が鳴り、作業は終了。帰りは、たった30分程度のっすりと眠っていた。うららかな春の日の、充実した半日となりました。

11時半にサイレン移動の車中もみんなぐた半日となりました。

11時半にサイレン移動の車中もみんなぐた半日となりました。



11時半にサイレン移動の車中もみんなぐた半日となりました。



